

茨城県生涯学習・社会教育研究会 広報紙

みんなで学ぶ生涯学習

第14号

令和7年3月31日

発行人

茨城県生涯学習・社会教育研究会

会長：長谷川 幸介

〒310-0034

○茨城県水戸市緑町 3-5-35

茨城県保健衛生会館別館

ひと・まちねっとわーく内

TEL 029-225-6991

FAX 029-303-5550



第66回全国社会教育研究大会茨城大会

第55回関東甲信越静社会教育研究大会茨城大会

第10回関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会

第66回全国社会教育研究大会茨城大会の成功を思う

本大会は、第10回関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会と合流して実施された。したがって、大会が成功するか否かの評価は、本研究会の真価が問われるものとなった。結果は大成功に終わり、参加者から多くの賛辞を贈られたという事実から、全国の社会教育関係者に茨城スタイルの社会教育推進モデルが評価されたと考えられるだろう。主催者側の一員として、本大会の成果を会員諸氏と分かち合いたいと切に思う。乾杯！

茨城県生涯学習・社会教育研究会会長 長谷川幸介

第66回 全国社会教育研究大会茨城大会 第55回 関東甲信越静社会教育研究大会茨城大会 第10回 関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会

報告

期日
令和6年10月24日
～10月25日
会場
水戸市民会館



第66回全国社会教育研究大会茨城大会、第55回関東甲信越静社会教育研究大会茨城大会、第10回関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会が、令和6年10月24日(木)～25日(金)水戸市民会館において開催されました。全国から1,000名を超える人数が参加し、全体会、分科会ともに、盛会のうちに終了することができました。歓迎アトラクションでは、「子ども梅大使」としておもてなしボランティア活動を行っている水戸市立五軒小学校の児童による「合唱」と「偕楽園記暗唱」とおして、水戸の歴史に思いを馳せることができました。24日の夜には、ホテルレイクビュー水戸において情報交換会が開催され、全国から集まった社会教育委員を中心に、関係者200名が交流を深めました。

大会スローガン

しょうおう こうらい 彰往考来 ～人をつくり 人をつなぎ 地域をつくる 未来の社会教育～

研究主題

誰一人として取り残さない社会を目指す社会教育のあり方
～子どもたちの健全な成長を支える～

全体会 10月24日(木)

開会行事



水戸市立五軒小学校



茨城県知事 大井川和彦



表彰代表 小美玉市 大平勇治



水戸市長 高橋靖



水戸市民会館グロービスホール

記念講演

「あなたの知らない名字の世界～名字には隠れた日本文化がある～」

名字研究家 高信 幸男 氏



名字研究家 高信幸男

【参加者の声】

- ・テレビで時々お見かけする高信氏の講演、楽しかったです。日本人には切っても切れない名字の興味深い内容、あつという間の時間でした。
- ・時間が短く感じるほど楽しい講演だった。名字の多様さや、読み仮名の多様さは、日本人のユーモアや時代背景、その土地柄など多くのことが関係していることが分かって面白かった。参加してよかったと思いました。
- ・名字もまさに文化だと納得。知らない事を知る喜びと楽しさを充分味わえた。これが生涯学習の原点だと思う。
- ・名字の奥深さに驚き、先生が本当に楽しんで探求する姿を見て、生涯学習の素晴らしさを実感しました。
- ・笑いあり、驚きありで80分があつという間に過ぎたのはもちろんだが、名字は誰もが所有するものであり、中には地域に根ざすものでもあることから、本大会にふさわしい内容だったと思った。

シンポジウム 「子どもたちの成長を支えるために社会教育は何ができるか」

【コーディネーター】

文教大学教授 金藤ふゆ子 氏

【シンポジスト】

茨城 NPO センター・コモンズ代表理事 横田 能洋 氏

大洗町教育委員会教育長 長谷川 馨 氏

NPO 法人たまり場ばば代表理事 早川 愛 氏

【参加者の声】

- ・「子どもたちの成長を支える」それぞれの立場からの事例発表はとても参考になりました。特に、たまり場ばば代表の早川様の「ママを守らないと子どもを守れない」という視点は、見逃されがちな母親への支援の大切さを考えることができて大変印象に残りました。
- ・現在社会教育委員会で取り組んでいるテーマに即したシンポジウムで大変参考になった。特に大洗の長谷川教育長の「うみ・まちコミュニティスクール」の発表は有益だった。
- ・横田さんの最後の発言「外国籍の子を支援するのは、地域の未来をつくること」に感銘を受けました。人を助けているのではなく、自分の未来を助けることになる。子どもの支援をすることは、全てこのことだとわかりました。
- ・切り口の違う3つの事例を、コーディネーターが、上手くまとめてくれたことで、それぞれの事例が、子どもの成長に互いに関連し合うものであると理解できてよかったと思います。



文教大学教授 金藤ふゆ子



コモンズ代表理事 横田能洋



大洗町教育長 長谷川馨



たまり場ばば代表理事 早川愛



水戸市民会館グロービスホール

分科会 10月25日(金)

第1分科会

地域と学校の連携・協働

地域と学校の連携・協働をととして、地域全体で子どもの成長を支える取組みについて

助言者：筑波大学准教授 丹間 康仁 氏

発表者：【愛媛県】 本で人をつなぎ地域に活力を生む冊子「いよし百冊物語」を発行
いよ本プロジェクト代表 岡田有利子 氏
【茨城県】 地域資源（自然・文化・歴史的価値遺産）を生かした地域活性化
森と地域の調和を考える会代表 龍崎 真一 氏
常陸大宮市立美和小学校教頭 徳増 香織 氏

【参加者の声】

世代間のつながりづくりの大切さがわかりました。行政だけでなく、地域、民間の人の力というものの重要性を非常に強く感じました。助言者が素晴らしく、会場からの意見を吸い上げながら、プレゼンを使って丁寧に「地域と学校の連携・協働」の視点で時間内にまとめられたことで分科会の質が高まりました。



筑波大学准教授 丹間康仁



いよ本プロジェクト代表
岡田有利子



森と地域の調和を考える会代表
龍崎真一



美和小学校教頭 徳増香織

第2分科会

家庭教育の充実支援

学習機会や情報の提供、相談体制の整備等社会全体で家庭教育を支援する体制づくりについて

助言者：茨城キリスト教大学教授 中島 美那子 氏

発表者：【鹿児島県】 「子育て支援」のプラットフォーム ～子育てを軸に、楽しくつながる～
喜入子育てコミュニティKADAN代表 亀井 愛子 氏
【茨城県】 鹿嶋市家庭教育支援チームの取組 鹿嶋市教育委員会社会教育課副参事 岸根 健二 氏
鹿嶋市家庭教育支援チーム支援員 木滝 里美 氏
矢幡久美子 氏

【参加者の声】

参加した方々のもっと語り合いたいという熱量を感じて、うれしく思いました。茨城県は県全体で様々な取り組みをしているように感じました。行政では解決できない問題がたくさんあり、そこに気付き、問題解決していくのが社会教育委員の大きな役割だと思います。



茨城キリスト教大学教授
中島美那子



KADAN代表 亀井愛子



鹿嶋市社会教育課副参事
岸根健二



鹿嶋市家庭教育支援チーム支援員
木滝里美 矢幡久美子

第3分科会

若者の主体的活動の促進

若者（中高校生、大学生等）の地域活動への参画及び地域活動の担い手育成について

助言者：茨城キリスト教大学兼任講師 池田 幸也 氏

発表者：【北海道】 人と人のつながりが生み出す場づくり 厚真けん玉クラブ代表 斉藤 烈 氏
【茨城県】 前に踏み出す力 ～様々な変化に柔軟に対応できる人材を目指して～
水戸市教育委員会生涯学習課社会教育主事 石井 浩司 氏
水戸市サプリーダーズ会長 金成 大智 氏
みと青年会会長 関山 瑠眺 氏

【参加者の声】

厚真けん玉クラブ代表斉藤先生の御発表が、大変刺激的で勉強になりました。「一度に世界は変えられない、だから一度ずつ世界を変えていく」など、心に刺さる言葉をたくさんいただきました。学生たちの「子どもの頃の楽しい思い出が今の活動に繋がっている」という言葉が今後の取組へのヒントになると感じました。



茨城キリスト教大学兼任講師
池田幸也



厚真けん玉クラブ代表 斉藤烈



水戸市生涯学習課社会教育主事
石井浩司



水戸市サプリーダーズ会長 金成大智
みと青年会会長 関山瑠眺

第4分科会

社会的包摂の実現

貧困、障がい者、外国人等困難な立場にある子どもたちを取り残さない取組について

助言者：茨城キリスト教大学文学部長 岩間 信之 氏

発表者：【宮崎県】 障がいのある人の学びの支援における生涯学習講座の実践
～行政と民間団体の協働を通して～ 霧島おむすび自然学校事務局長 壹岐 博彦 氏
【茨城県】 困難を抱えて生きていく子どもと真ん中支援の取組事例と地域の中にある子どもの第三の居場所の役割 認定 NPO 法人 NGO 未来の子どもネットワーク代表理事 笠井 広子 氏

【参加者の声】

現実のすさまじさを感じました。活動に頭が下がります。行政も一般も世の中をきちんと見ていかなくてはいいなと思いました。すべてが自分の事ととらえないと、こぼれてしまう人々が増えていくと思いました。好事例には好事例たる特徴やこだわりがあり、そのような取組みはとても参考になります。



茨城キリスト教大学文学部長
岩間信之



霧島おむすび自然学校事務局長
壹岐博彦



未来の子どもネットワーク代表理事
笠井広子



第4分科会 会場

第5分科会

社会教育委員の役割

社会教育委員会による「子どもたちの健全な育成」に関する提言や取組事例について

助言者：茨城県生涯学習・社会教育研究会顧問 坂本 登 氏

発表者：【東京都】 社会教育委員会提言「3つのきょういく」から進化した取組事例「あきる野サマーチャレンジ」について あきる野サマーチャレンジ運営委員会委員長 遠藤 隆一 氏
【茨城県】 活動テーマを創造し、調査研究・協議に主体的に取り組む会議の進め方
ひたちなか市社会教育委員の会議議長 徳田 茂樹 氏
副議長 関口 拓生 氏

【参加者の声】

社会教育委員が体験の機会を提供している例と提言や答申を行うにあたっての運営方法の例で、全く違った内容でしたが双方とも参考になりました。坂本先生のまとめは本当に参考になりました。大会全体を通してレベルの高い内容で、学ぶ点が多くあり、参加してとても良かったです。



生涯学習・社会教育研究会顧問
坂本登



あきる野サマーチャレンジ
運営委員会委員長 遠藤隆一



ひたちなか市社会教育委員
議長 徳田茂樹 副議長 関口拓生



第5分科会 会場

さらに詳しい大会報告をご覧になりたい方は、QRコードから茨城県生涯学習情報提供システム「茨城の生涯学習」にアクセスしてください。大会報告書を掲載しています。



会員研修会

主催：茨城県生涯学習・社会教育研究会

日時：令和6年12月14日（土）13:00～16:00

会場：水戸生涯学習センター 中講座室（三の丸庁舎）

多様な学びの場を創造する

□まおい学びのさとの実践

—大人も子どもも創り上げる、
多様な学びの場として—

事例①

NPO 法人まおい学びのさと監事 小塚 雅志 氏

NPO 法人が主体となって北海道夕張郡長沼町に「まおい学びのさと小学校」を2023年4月



に開校しました。スタッフと地域が密接に連携した取組を発表していただきました。

□まおいから考える、ごはんを通じた学校支援と地域づくり

事例②

NPO法人まおい学びのさと副代表 井上 淳生 氏

「まおい学びのさと小学校」では開校1年目から、昼食の提供を目指しました。地域の方の協



力を得ながら週2回の昼食を提供しています。大人と子どもで共に創る学校です。

□子ども達の未来につなぐ 今、あなたは何をする？

事例③

株式会社やつほ一代表 中山 真理子 氏
同 代表 山本 三枝子 氏

2023年4月から、「大人が学び、つながる交流の場」を提供しています。大人が学び直す場で



です。思い悩んだら一緒に考える。自分が変われば周囲が変わることを発見できる場です。

グループワーク

「人間の学びは文字と言葉だけでいいのか。」を探る議論となりました。今の学校教育は、左脳(論理)を鍛えることに注力し過ぎではないか、右脳(共感力)を研ぎ澄ます必要があるのではないかと哲学的な内容へと議論は白熱しました。参加者の皆さんは、予測不可能な未来を生き抜く子どもの育成ために、様々な視点から真剣にディスカッションを行いました。



〔参加者の声〕

- ・ 哲学的な問いを照れずに真正面から向き合う文化を作っていきたいと思う。(自営業)
- ・ 自分の課題にもう一度向き合う機会をいただいた。来てよかった。(学生)
- ・ 子どもと大人が共存し、お互いが学び合える居場所づくりをしようと考えようになれた。(エンジニア)
- ・ 一つのことにこだわらない多様な支援のあり方がヒントになった。(生涯学習団体)
- ・ 学校現場だけでなく、とらわれない多様な学び方があることを学んだ。(学校関係)

第4回茨城県生涯学習・社会教育交流大会

大会テーマ

『はじめの一步～子どもたちの未来のために～』

令和7年2月15日(土)、茨城県鹿行生涯学習センターを会場に、第4回目となる茨城県生涯学習・社会教育交流大会を開催しました。コロナ禍もあり5年ぶりの対面での開催でしたが、鹿行地区の方をはじめ多くの方が参加されました。『はじめの一步～子どもたちの未来のために～』という大会テーマの下、ひきこもり・不登校の「理解」と「対応」のあり方や子ども食堂の体験活動と居場所づくりについての実践事例発表をとおして世代を超えて参加者が一体となり、私たちにできることを一緒に考えました。



第1実践

ひきこもり不登校の「理解」と「対応」のあり方を探る
～すべての子ども・若者が自分らしく/生きやすい社会をめざして～
ひきこもり不登校/つながり考える鹿行の会 代表 小林 幸弘 氏

ひきこもり/不登校の問題は何か、行政資料、KHJひきこもり実態調査などによる現状の説明がありました。また、相談事例をとおしてひきこもりは生きるための反応、身を守る大事な適切な行為だと肯定すること。回復、解決の基本は人との信頼関係の再構築、まろごと受け入れてもらえたという安心感が大事であると発表されました。



第2実践

受け入れと愛をもった関わりが子どもの未来をつくる
NPO 法人あっとホームたかまつ 理事長 根本 紗千心 氏

法人の紹介では地域でみんなの子どもを育む活動を行っていることや子ども食堂では食事の提供だけではなく、子どもたちが様々なことに参加できることを目的としている。

また、子どもの特性について4つの事例を挙げ、その事例に共通していることは、人の話に耳を傾け、会話することから始まる。受け入れはありのままを認めることが必要であると発表されました。



グループ協議

グループ協議では、参加者同士、積極的に意見を交わす様子が見られました。また、いろいろな活動をしている方との交流や自分の考えをさらに深める時間となったとの声も多くありました。



アトラクション

「北浦童太鼓」の皆さんが、太鼓の演奏で会を盛り上げてくれました。迫力ある太鼓の音色は、聴く人の心の底にも響き渡りました。



特集 あらためて体験活動にチャレンジするVer. 2

今回は、笠間ふれあい体験旅行推進協議会の「笠間ふれあい体験旅行」について特集させていただきます。

笠間ふれあい体験旅行推進協議会のご厚意により、同協議会日より「であい・ふれあい」のNo. 4 (令和5年12月25日発行) から転載して報告させていただきます。

「笠間ふれあい体験旅行」は、笠間の豊かな自然やそこで生活する人々を含めた地域を体験する旅行です。国内ばかりではなく海外からの参加となっています。参加された方々は、体験を主とした旅行に普通の観光旅行とは違う魅力を感じ、よい思い出で留まらず「生き方」にも影響を与えているようです。

令和5年度には、481人(内387人が海外から)が笠間で民泊(ホームステイ)をしています。



☆令和5年度笠間ふれあい体験旅行受入実績

	実施日	泊数	受入団体名	人数	民家軒数
1	5/25(木)	日帰り	浦安市立見明川中学校2年生	91	28
2	5/29(月)～30(火)	1泊	台湾高校生民泊	31	8
3	6/27(火)～28(水)	1泊	兵庫県立姫路北高校3年生	73	20
4	7/29(土)～30(日)	1泊	中国貴州省遵義市私立小中高一貫	21	7
5	8/1(火)～3(木)	2泊	BMX講習と民泊ツアー	4	2
6	8/4(金)～5(土)	1泊	中国大学生	15	5
7	9/1(金)～2(土)	1泊	台湾農業関係者民泊	20	5
8	9/8(金)～9(土)	1泊	台湾農業関係者民泊	20	5
9	9/12(火)	日帰り	インド旅行会社視察13:00		
10	9/15(金)	日帰り	浦安市立明海中学校2年生	73	27
11	9/28(木)	日帰り	浦安市立高洲中学校2年生	146	37
12	10/15(日)～16(月)	1泊	台湾板橋高校	64	17
13	10/18(水)	日帰り	岩間第三小学校民家体験	38	12
14	10/28(土)～29(日)	1泊	笠間市移住体験ツアー	5	3
15	10/30(月)～31(火)	1泊	台湾新北市高校生民泊	33	10
16	11/15(水)～16(木)	1泊	シンガポール一般客	27	7
17	11/15(水)～19(日)	4泊	ベトナム農業研修生(ゲストハウス+民泊)	7	2
18	12/4(月)～5(火)	1泊	台湾中学生ホームステイ	31	8
19	1/24(水)～25(木)	1泊	台湾高校生ホームステイ	43	12
20	2/1(木)～2(金)	1泊	中国中高生ホームステイ	25	7
21	2/22(木)～23(金)	1泊	中国日本語作文表彰大学生ホームステイ	50	14
22	3/23(土)～24(日)	1泊	笠間市移住体験ツアー	12	3
			合 計	829	239

今年「民泊」した団体客の数

国名	人数
日本	94
台湾	242
中国	111
シンガポール	27
ベトナム	7
合計	481
2023年度(予定も含む)	

海外から「民泊」(ホームステイ)するお客さんも劇的に増えてきて、多くは高校生ですが一般のお客さんも増えてきています。国別の人数は左の表の通りです。

民泊が海外の方に好評なのは、ホテルとは違って何より人との親密な交流が生まれ、日本の暮らしをリアルに体験できることにあるようです。たった一晩の民泊でも、翌日朝のお別れでは旧知の友のように記念撮影をし、抱き合って別れを惜しむ姿が毎回見られるそうです。

【笠間ふれあい体験旅行推進協議会】(令和5年度)

<役員等>

会 長 福田 勝之(陶芸家)氏
副会長 青木 才生(農業指導者)氏
笠間観光協会事務局長
監 事 笠間焼協同組合事務局長
笠間市商工会事務局長
事務局 (NPO)笠間の魅力発信隊 大坪 桂 氏

<構成団体・個人>計30

笠間市観光課、(一社)笠間観光協会、(一財)笠間市農業公社、笠間アグリビジネスネットワーク協議会、笠間稲荷神社、笠間市商工会、笠間焼協同組合、稲田禅房西念寺、(株)笠間工芸の丘、(株)U-A石切り山脈プレミアムツアー、(株)マイファーム笠間クラインガルテン、ムラサキパークかさま、クライミングジムボルテックス、(NPO)ピオトープ天神の里をつくる会、(公財)合気会茨城支部道場、森の守り人、笠間茶屋、笠間ウッドクラブ、製陶ふくだ、青木才生、山里のアトリエハウス夢拓香、古民家の宿「黒澤永之丞」、モネの家、田舎の実家、笠間体験研究所、喜代の吾国園、Auberge de Y、フォレストインかさま、森の中のリトリート、(NPO)笠間の魅力発信隊

役員の皆様と多くの構成団体・個人の協働により丁寧な運営がなされ、ニーズもあり参加者数が増えています。

受入れ側の事務局や構成団体・個人の方々の経験により体験内容も年々さらに豊かになり、参加者の満足度や教育的な価値も高まり充実しています。この取組は教育旅行への新たな示唆を与えてくれると感じます。



民泊後に台湾の高校生がくれたメッセージ

この一日のお世話に感謝します。食べ物はとても美味しく、おもてなしはとてもあたたかかったです。次回もお会いできることを楽しみにしています。この一日は私にとってとても特別な時間でした。機会があれば、台湾にいらっしゃって私がおもてなしする番です。お会いできてとてもうれしかったです。この体験の中、最も印象に残ったのは翌朝に日本語でたくさんの会話ができたことです。その朝は本当に私の人生で最も幸福な朝でした。とてもうれしかったです。最後に、本当にありがとうございました。本当に感謝しています。お会いができて、私の一番の喜びです。(原文は繁体字)

左のメッセージから、自然や文化に触れての感動だけではなく、人と人との温かな心の交流により絆が結ばれている様子が伺えます。

体験活動は多くの人との関わりが必要となり、非効率であると思われることもありますが、体験からの学びを考えますと効率的であると考えられます。そして、豊かさを感じ体験活動の必要性を強く感じます。

表情も素敵な写真です。魅力的な様々な体験学習が展開され「笠間ふれあい体験旅行」の成功が伺えます。



～笠間ふれあい体験旅行（民泊・民家体験）～

「民泊」ってなに？

2018年に「住宅宿泊事業法」が施行されて、届け出をすれば自宅や空き家などにお客さんを泊めて対価を得ることができるようになりました。これを「民泊」といいます。「旅館業」などの許可を得なくても比較的簡易な手続きで宿泊業ができるようになりました。

おたよりには「民泊」についての情報もあります。

笠間ふれあい体験旅行推進協議会では民泊の民家同士の交流会をしたり、民泊届け出の手続き支援をしたりしています。

【修学旅行として笠間ふれあい体験旅行】

兵庫県から来た高校生



「修学旅行でマジで1番楽しかったと思う。最後の手紙は泣いたし思い出いっぱい。手紙、携帯の裏に挟んでる♥また行きたい会いたいし話したい♥」



【自然とつながる】

【修学旅行日程】

1日目「民家体験」「民泊」 2日目 つくばで体験学習
3日目 東京ディズニーランド 4日目 都内班別活動

「1番楽しかった」

コロナ禍で様々な行事が縮小され人との触れ合いが制限され続けた高校生にとって、久しぶりの旅行で味わった人との交流、温かいもてなしに感激をしたのでしょう。



【チームのつながりをふりかえる】

☆☆暑中見舞い☆☆

お久しぶりです。毎日暑い日が続きますが〇〇さんはお元気ですか。（中略）1泊という短い時間でしたが、私の中で修学旅行の1番の思い出です。

お別れするときのお手紙もすごく嬉しくて1日の体験内容も今はっきり覚えています。私は今卒業に必要な単位を取るためにギリギリのラインで頑張っています。いつかまた絶対に〇〇さんや皆さんともう一度お話ししたいと思っています。私も頑張るので〇〇さんや皆さんも体調に気を付けて元気にお過ごしください。



【世代を超えてつながる】



【個のつながりをふりかえる】



修学旅行の中で、ディズニーランドや都内班別活動を抑えて「1番楽しかった」ことに「民家体験」「民泊」を挙げている。大人たちが考える楽しいと若者たちが感じる楽しいには違いがあるのではないのでしょうか。人と人とがふれあい、協働作業することに意義を見出すことのできる体験活動の大切さを教えていただきました。

「民家体験」～笠間市内の小学校でも展開～



12件の受け入れ民家（農家、建築、ボルトリング、陶芸、カフェ、呉服店、ビオトープに分かれて、子どもたちが課題別に体験学習を行いました。



さとも掘ったよ



BMX 体験



落花生採ったよ



カフェ体験



陶芸体験



木工体験



着付け体験

【子どもたちの感想】

〇〇さんがカンナで木を「すーっ」と削っているところがとてもかっこよかった。（略）

【受け入れた方の感想】

子どもたちが体験に来てくれることで店の雰囲気、お客様の雰囲気が明るくなりました。子どもたちの自由な発想や仕事を体験する姿勢には私たちが学ぶことが多かった。（略）

子どもたちの多様性に対応し、個のよさを引き出していただきました。

あらためて体験活動の必要性を感じ、一步を踏み出しませんか。

研究会報告

令和5年度の主な事業

◎ 定期総会・研修会

- 期 日 令和5年6月11日(日) ○ 会 場 茨城県立青少年会館
- 総会後合同研修会 (ひと・まちなつとわーくとの共催)
演題:「人生100年時代の生き方～ハワイのワヒネ(女性)から学ぶ～」
講師:茨城キリスト教大学教授 中島美那子先生

◎ 第9回関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会

- 期 日 令和5年10月28日(土) ○ 会 場 水戸市民会館
- 参加者数 262人(会場172人、オンライン90人)
- 内 容 実践事例発表:本県を含め関東近県の機関、団体等9団体(3団体×3会場)
令和6年度第66回全国社会教育研究大会のプレ大会を兼ねて実施
受付の設置・参加者の導線・分科会会場設営の手順等確認、オンラインのテスト実施

◎ 会員研修会

- 期 日 令和5年12月9日(土) ○ 会場等 水戸生涯学習センター及びオンライン
- テーマ ボーダレスコミュニティづくりとソーシャルビジネス
- 内 容 シンポジウム:黄磊氏・杉浦彰子氏の実践発表、ファシリテーター:伊藤副会長
コメンテーター:山根将大氏・長谷川会長

◎ 地区別研修会

- 県西地区 5月19日(金)・県西生涯学習センター
講演:「諦めない力・理解する心～障がい者スポーツアスリートから学ぶ～」講師:山口凌河氏
- 鹿行地区 8月30日(水)・鹿行生涯学習センター
講演・質疑応答・協議 講師・ファシリテーター:志々田まなみ氏(CSマイスター)

◎ 実践事例集「社会教育交差点第7号」の発行

令和6年度の主な事業

◎ 定期総会・研修会

- 期 日 令和6年6月8日(土) ○ 会場 茨城県立青少年会館
- 総会後合同研修会 (ひと・まちなつとわーくとの共催)
演題:「障害児通所支援の現状とひと・まちすりーえすの取り組み」
講師:ひと・まちすりーえす管理者 飯塚裕治氏

◎ 第10回関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会(本紙1～3面に掲載 提供:茨城県生涯学習課)

- 第66回全国社会教育研究大会・第55回関東甲信越静社会教育研究大会を兼ねて開催
- 期 日 令和6年10月24日(木)～25日(金) ○ 会 場 水戸市民会館
- 参加者数 1066人
- 内 容 開会行事、記念講演、シンポジウム、5分科会(10事例発表・研究協議)

◎ 会員研修会(本紙4面に掲載)

- 期 日 令和6年12月14日(土) ○ 会場等 水戸生涯学習センター及びオンライン
- テーマ 多様な学びの場を創造する ○ 参加者数 51人(会場48人、オンライン3人)
- 内 容 3実践事例発表・グループワーク
コメンテーター:長谷川幸介会長 ファシリテーター:伊藤哲司副会長
コーディネーター:杉浦彰子JA共済総合研究所調査研究部研究員/社会教育士

◎ 会員研修会

- 期 日 令和7年2月21日(金) ○ 会 場 水戸生涯学習センター ○ 参加者数 31人
- 演題 「長期自然体験活動が未来を拓く力を育む～福島復興支援事業なすかしドリームプロジェクト
11年間の追跡調査からわかること～」
講師:水戸生涯学習センター次長兼企画振興課長 鈴木昭博氏

◎ 地区別研修会

- 県南教育事務所管内コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動研修会
- 期 日 令和6年6月14日(金) ○ 会 場 県南生涯学習センター ○ 参加者数 35人
講師:ふくしま学校と地域の未来研究所 代表 安齋宏之氏(CSマイスター)

◎ 第4回茨城県生涯学習・社会教育交流大会(本紙5面掲載)

- 期 日 令和7年2月15日(土) ○ 会 場 鹿行生涯学習センター
- テーマ はじめの一步～子どもたちの未来のために～ ○ 参加者数 113名
- 内 容 ひきこもり不登校への理解と対応や子ども食堂の体験活動と居場所づくりの実践事例をととしての研究協議

◎ 実践事例集「社会教育交差点第8号」の発行

編 集 後 記

会員各位のご協力により、第14号を発行することができました。ご多用のところ早く執筆くださいました皆様や事業で記録を担当された方々に感謝申し上げます。今回の広報紙は、令和5年度と6年度の2カ年を合わせての発行とさせていただきます。今後の発行については、工夫をして参りたいと考えています。会員の皆様をはじめご覧いただいた方々の益々のご活躍をご祈念申し上げます。(HM記)